



# Cisco IOS ソフトウェアの使用

---

この章では、Cisco IOS ソフトウェアを使用して SPA Interface Processor (SIP) または Shared Port Adapter (SPA) を設定するための準備方法を示します。具体的な内容は次のとおりです。

- ルータ コンソールを使用して CLI にアクセスする方法 (p.1-2)
- キーボードショートカットの使用 (p.1-7)
- ヒストリ バッファによるコマンドの呼び出し (p.1-7)
- コマンドモードの概要 (p.1-8)
- ヘルプの利用方法 (p.1-9)
- コマンドの `no` 形式および `default` 形式の使用 (p.1-12)
- 設定変更の保存 (p.1-13)
- `show` コマンドおよび `more` コマンドの出力のフィルタリング (p.1-13)
- プラットフォームおよびシスコ ソフトウェア イメージのサポート情報の検索 (p.1-14)

## ルータ コンソールを使用して CLI にアクセスする方法

ここでは、直接接続されたコンソールを使用して CLI (コマンドラインインターフェイス) にアクセスする方法や、Telnet またはモデムを使用してリモート コンソールを実現し、CLI にアクセスする方法について説明します。

- [直接接続されたコンソールを使用して CLI にアクセスする方法 \(p.1-2\)](#)
- [Telnet を使用してリモート コンソールから CLI にアクセスする方法 \(p.1-4\)](#)
- [モデムを使用してリモート コンソールから CLI にアクセスする方法 \(p.1-6\)](#)

各サービスを介してルータを設定およびアクセスする手順については、『Cisco IOS Terminal Services Configuration Guide』および『Cisco IOS Terminal Services Command Reference』を参照してください。

コンソール ケーブルの接続方法については、『Cisco 7600 Series Router Module Installation Guide』を参照してください。

## 直接接続されたコンソールを使用して CLI にアクセスする方法

ここでは、ルータのコンソール ポートに接続し、コンソール インターフェイスを使用して CLI にアクセスする方法について説明します。

Cisco 7600 シリーズルータのコンソール ポートは、ハードウェア フロー制御が可能な、RJ-45 コネクタを使用する EIA/TIA-232 非同期シリアル接続です。コンソール ポートはスーパーバイザ エンジンの前面パネルにあります (図 1-1 および図 1-2 を参照)。

図 1-1 Supervisor Engine 720 コンソール ポートのコネクタ

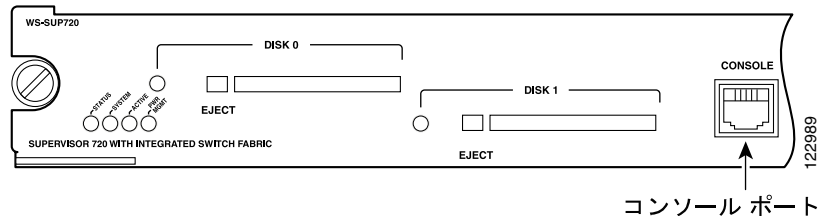
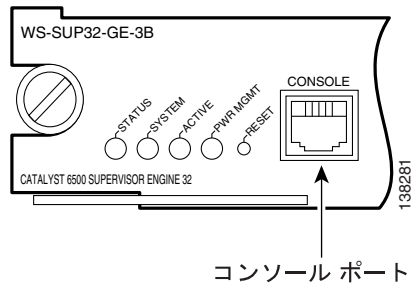


図 1-2 Supervisor Engine 32 コンソール ポートのコネクタ



## コンソール ポートとの接続

端末または PC を介してルータ上のコンソール インターフェイスを使用する場合は、事前に次の手順を実行する必要があります。

**ステップ 1** 端末エミュレーション ソフトウェアを次のように設定します。

- 9,600 bps (ビット/秒)
- 8 データ ビット
- パリティなし
- 2 ストップ ビット



(注)

これらは、ルータのデフォルトのシリアル通信パラメータです。ご使用の端末またはホストの要件に合わせてデフォルト設定を変更する方法については、『Cisco IOS Terminal Services Configuration Guide』を参照してください。

**ステップ 2** 次のいずれかの方法を使用してコンソール ポートに端末または PC を接続します。

- a. Cisco 7600 シリーズ ルータに付属のアクセサリ キット内のケーブルおよびアダプタを使用してコンソール ポートに接続する手順は、次のとおりです。
  - コンソール ポート モード スイッチを in の位置 (出荷時のデフォルト) にします。
  - RJ-45/RJ-45 ケーブルと RJ-45/DB-25 DTE (データ端末装置) アダプタ、または RJ-45/DB-9 DTE アダプタ ([Terminal] のラベル) を使用して、ポートに接続します。
- b. Catalyst 5000 ファミリー Supervisor Engine III のコンソール ケーブルを使用してコンソール ポートに接続する手順は、次のとおりです。
  - コンソール ポート モード スイッチを out の位置にします。
  - Supervisor Engine III のケーブルと、端末接続に適したアダプタを使用して、ポートに接続します。

## コンソール インターフェイスの使用方法

コンソール インターフェイスを使用して CLI にアクセスする手順は、次のとおりです。

**ステップ 1** ルータのコンソール ポートに端末ハードウェアを接続し、端末エミュレーション ソフトウェアを適切に設定すると、次のプロンプトが表示されます。

```
Press Return for Console prompt
```

**ステップ 2** **Return** キーを押して、ユーザ EXEC コンフィギュレーション モードを開始します。次のプロンプトが表示されます。

```
Router>
```

**ステップ 3** ユーザ EXEC コンフィギュレーション モードから、次の例のように **enable** コマンドを入力します。

```
Router> enable
```

## ■ ルータ コンソールを使用して CLI にアクセスする方法

- ステップ 4** パスワードプロンプトで、システムのパスワードを入力します（次に、パスワード「enablepass」を入力する例を示します）。

```
Password: enablepass
```

- ステップ 5** イネーブルパスワードが受け入れられると、特権 EXEC コンフィギュレーション モードプロンプトが表示されます。

```
Router#
```

- ステップ 6** これで、特権 EXEC コンフィギュレーション モードでの CLI へのアクセスが完了し、目的の作業を完了するために必要なコマンドを入力できます。

- ステップ 7** コンソールセッションを終了するには、次の例のように **quit** コマンドを入力します。

```
Router# quit
```

---

## Telnet を使用してリモート コンソールから CLI にアクセスする方法

ここでは、Telnet を使用してルータのコンソールインターフェイスに接続し、CLI にアクセスする方法について説明します。

### Telnet を使用してルータ コンソールに接続するための準備

Telnet を使用して TCP/IP ネットワークからルータにリモートにアクセスするには、事前に **line vty** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して、**vtty**（仮想端末回線）をサポートするようにルータを設定する必要があります。また、ログインを要求するように **vtty** を設定し、パスワードを指定する必要もあります。



**(注)** 回線上でログインがディセーブル化されないようにするには、**login** ライン コンフィギュレーション コマンドを設定するときに、**password** コマンドでパスワードを指定する必要があります。Authentication, Authorization, Accounting (AAA; 認証、認可、アカウントिंग) を使用している場合は、**login authentication** ライン コンフィギュレーション コマンドを設定する必要があります。**login authentication** コマンドを使用してリストを設定する場合に、回線上で AAA 認証に関するログインがディセーブル化されないようにするには、**aaa authentication login** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して、リストを設定する必要もあります。AAA サービスの詳細については、『Cisco IOS Security Configuration Guide』および『Cisco IOS Security Command Reference』を参照してください。

---

また、ルータに Telnet 接続を行う前に、ルータの有効ホスト名またはルータに設定された IP アドレスを取得しておく必要があります。Telnet を使用してルータに接続するための要件、Telnet サービスのカスタマイズ方法、および Telnet キー シーケンスの使用方法については、『Cisco IOS Terminal Services Configuration Guide』を参照してください。

## Telnet を使用してコンソール インターフェイスにアクセスする方法

Telnet を使用してコンソール インターフェイスにアクセスする手順は、次のとおりです。

**ステップ 1** 端末または PC から次のいずれかのコマンドを入力します。

- `connect host [port] [keyword]`
- `telnet host [port] [keyword]`

*host* はルータのホスト名または IP アドレス、*port* は 10 進数のポート番号 (23 がデフォルト)、*keyword* はサポートされているキーワードです。詳細については、『Cisco IOS Terminal Services Command Reference』を参照してください。



**(注)** アクセス サーバを使用している場合は、ホスト名や IP アドレスのほかに、`telnet 172.20.52.40 2004` などの有効なポート番号を指定する必要があります。

次に、`telnet` コマンドを使用してルータ「router」に接続する例を示します。

```
unix_host% telnet router
Trying 172.20.52.40...
Connected to 172.20.52.40.
Escape character is '^'.
unix_host% connect
```

**ステップ 2** パスワード プロンプトで、ログイン パスワードを入力します。次に、パスワード「mypass」を入力する例を示します。

```
User Access Verification

Password: mypass
```



**(注)** パスワードを設定していない場合は、**Return** キーを押します。

**ステップ 3** ユーザ EXEC コンフィギュレーション モードから、次の例のように `enable` コマンドを入力します。

```
Router> enable
```

**ステップ 4** パスワード プロンプトで、システムのパスワードを入力します (次に、パスワード「enablepass」を入力する例を示します)。

```
Password: enablepass
```

**ステップ 5** イネーブルパスワードが受け入れられると、特権 EXEC コンフィギュレーション モードプロンプトが表示されます。

```
Router#
```

## ルータ コンソールを使用して CLI にアクセスする方法

**ステップ 6** これで、特権 EXEC コンフィギュレーション モードでの CLI へのアクセスが完了し、目的の作業を完了するために必要なコマンドを入力できます。

**ステップ 7** Telnet セッションを終了するには、次の例のように **exit** または **logout** コマンドを使用します。

```
Router# logout
```

## モデムを使用してリモート コンソールから CLI にアクセスする方法

モデムを使用して、非同期接続経由でルータにリモートからアクセスするには、モデムをコンソールポートに接続します。

Cisco 7600 シリーズ ルータのコンソールポートは、ハードウェアフロー制御が可能な、RJ-45 コネクタを使用する EIA/TIA-232 非同期シリアル接続です。コンソールポートはスーパーバイザエンジンの前面パネルにあります (図 1-3 および図 1-4 を参照)。

図 1-3 Supervisor Engine 720 コンソールポートのコネクタ

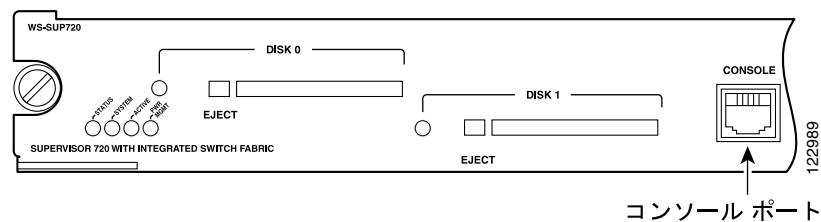
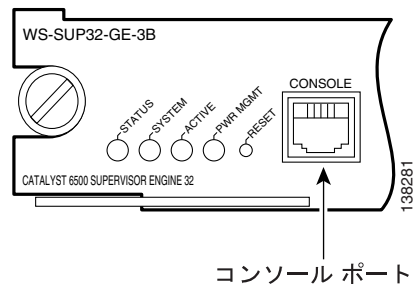


図 1-4 Supervisor Engine 32 コンソールポートのコネクタ



コンソールポートにモデムを接続するには、コンソールポートモードスイッチを **in** の位置にします。RJ-45/RJ-45 ケーブルと RJ-45/DB-25 DCE (データ通信装置) アダプタ ([Modem] のラベル) を使用して、ポートに接続します。

## キーボードショートカットの使用

コマンドに大文字と小文字の区別はありません。また、コマンドおよびパラメータは、現在使用できる他のコマンドまたはパラメータとの区別が可能な文字数まで省略できます。

表 1-1 に、コマンドを入力および編集するためのキーボードショートカットを示します。

表 1-1 キーボードショートカット

キーストローク	説明
Ctrl-B または左矢印キー <sup>1</sup>	カーソルを 1 文字分だけ後退させます。
Ctrl-F または右矢印キー <sup>1</sup>	カーソルを 1 文字分だけ進めます。
Ctrl-A	コマンドラインの先頭にカーソルを移動します。
Ctrl-E	コマンドラインの末尾にカーソルを移動します。
Esc B	カーソルをワード 1 つ分だけ後退させます。
Esc F	カーソルをワード 1 つ分だけ進めます。

1. 矢印キーは、VT100 などの ANSI 互換端末に限り有効です。

## ヒストリバッファによるコマンドの呼び出し

ヒストリバッファには、最後に入力したコマンドが 20 まで保存されます。ヒストリ置換によって、特別な短縮コマンドを使用して、再入力せずに保存されているコマンドを呼び出すことができます。

表 1-2 にヒストリ置換コマンドを示します。

表 1-2 ヒストリ置換コマンド

コマンド	説明
Ctrl-P または上矢印キー <sup>1</sup>	直前に入力したコマンドから始めて、ヒストリバッファに保存されているコマンドを呼び出します。キーシーケンスを繰り返すと、古いコマンドが順に呼び出されます。
Ctrl-N または下矢印キー <sup>1</sup>	Ctrl-P または上矢印キーでコマンドを呼び出したあとで、ヒストリバッファ内のより新しいコマンドに戻ります。
Router# <code>show history</code>	EXEC モードで、最後に入力したいくつかのコマンドを表示します。

1. 矢印キーは、VT100 などの ANSI 互換端末に限り有効です。

## コマンドモードの概要

Cisco IOS ソフトウェアにアクセスするには、CLI を使用します。CLI には多くのモードがあり、使用しているモードにより利用できるコマンドが異なります。CLI プロンプトで疑問符 (?) を入力すると、各コマンドモードで使用できるコマンドのリストを取得できます。

CLI にログインしたときのモードはユーザ EXEC モードです。ユーザ EXEC モードでは、使用できるコマンドが制限されています。すべてのコマンドを使用できるようにするには、通常はパスワードを使用して、特権 EXEC モードを開始する必要があります。特権 EXEC モードからは、ユーザモードまたはイネーブルモードを含むすべての EXEC コマンドを発行できます。また、グローバル コンフィギュレーションモードも開始できます。ほとんどの EXEC コマンドは 1 回限りのコマンドです。たとえば、**show** コマンドは重要なステータス情報を表示し、**clear** コマンドはカウンタまたはインターフェイスをクリアします。EXEC コマンドはソフトウェアの再起動時に保存されません。

コンフィギュレーションモードでは、実行コンフィギュレーションを変更できます。その後、実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションに保存しておく、変更されたコマンドはソフトウェアの再起動後も保存されます。特定のコンフィギュレーションモードを開始するには、グローバルコンフィギュレーションモードを開始する必要があります。グローバルコンフィギュレーションモードからは、インターフェイスコンフィギュレーションモードや、プロトコル固有モードなど、その他のさまざまなモードを開始できます。

ROM モニタモードは、Cisco IOS ソフトウェアを正常にロードできない場合に使用される独立したモードです。ソフトウェアの起動時に有効なソフトウェアイメージが見つからない場合、または起動時にコンフィギュレーションファイルが破損している場合は、ROM モニタモードが開始されることがあります。

表 1-3 に、Cisco IOS ソフトウェアの一般的な各コマンドモードへのアクセス方法、および終了方法について説明します。また、各モードで表示されるプロンプトの例も示します。

表 1-3 コマンドモードのアクセスおよび終了

コマンドモード	アクセス方式	プロンプト	終了方法
ユーザ EXEC	ログインします。	Router>	<b>logout</b> コマンドを使用します。
特権 EXEC	ユーザ EXEC モードで、 <b>enable</b> EXEC コマンドを使用します。	Router#	ユーザ EXEC モードに戻るには、 <b>disable</b> コマンドを使用します。
グローバル コンフィギュレーション	特権 EXEC モードで、 <b>configure terminal</b> 特権 EXEC コマンドを使用します。	Router(config)#	グローバル コンフィギュレーションモードから特権 EXEC モードに戻るには、 <b>exit</b> コマンドまたは <b>end</b> コマンドを使用します。
インターフェイス コンフィギュレーション	グローバル コンフィギュレーションモードで、 <b>interface</b> コマンドを使用してインターフェイスを指定します。	Router(config-if)#	グローバル コンフィギュレーションモードに戻るには、 <b>exit</b> コマンドを使用します。 特権 EXEC モードに戻るには、 <b>end</b> コマンドを使用します。
ROM モニタ	特権 EXEC モードで、 <b>reload</b> EXEC コマンドを使用します。システムが起動してからの最初の 60 秒間に、 <b>Break</b> キーを押します。	>	ROM モニタモードを終了するには、 <b>continue</b> コマンドを使用します。

コマンドモードの詳細については、『Cisco IOS Configuration Fundamentals and Network Management Configuration Guide』の「Using the Command-Line Interface」の章を参照してください。



## ヘルプの利用方法

CLI プロンプトで疑問符 (?) を入力すると、各コマンドモードで使用できるコマンドリストが表示されます。コンテキスト ヘルプ機能を使用すると、コマンドに関連するキーワードと引数のリストも取得できます。

コマンドモード、コマンド、キーワード、または引数に固有のヘルプ情報を表示するには、次のいずれかのコマンドを使用します。

表 1-4 ヘルプ コマンドおよび説明

コマンド	説明
help	コマンドモードのヘルプ システムの概要を示します。
abbreviated-command-entry?	特定の文字ストリングで始まるコマンドのリストが表示されます (コマンドと疑問符の間にはスペースを入れないでください)。
abbreviated-command-entry<Tab>	指定したコマンド省略形に基づいて、完全なコマンド名が表示されます。
?	特定のコマンドモードで使用できるすべてのコマンドが表示されます。
command ?	コマンドラインで次に入力する必要のあるキーワードまたは引数が表示されます (コマンドと疑問符の間にスペースを入れてください)。

## コマンド検索オプションの検索例

ここでは、コマンド構文を表示する例を示します。コマンド構文には、任意または必須のキーワードおよび引数が含まれています。コマンドのキーワードおよび引数を表示するには、コンフィギュレーション プロンプトで疑問符 (?) を入力するか、またはコマンドの一部を入力したあとに 1 スペース空けて、疑問符 (?) を入力します。使用可能なキーワードおよび引数のリストと簡単な説明が表示されます。たとえば、グローバル コンフィギュレーション モードで **arap** コマンドのすべてのキーワードまたは引数を表示する場合は、**arap ?** と入力します。

コマンド ヘルプ出力の <cr> 記号は、「CR (復帰)」を表します。旧式のキーボードでは、CR キーは Return キーです。最近のキーボードでは、CR キーは Enter キーです。コマンド ヘルプ出力の末尾に <cr> 記号が表示されている場合は、Enter キーを押してコマンドを完了できます。<cr> 記号の前に表示されている引数とキーワードはオプションです。<cr> 記号自体は、使用できる引数またはキーワードがこれ以上ないため、Enter キーを押してコマンドを完了する必要があることを示します。

表 1-5 に、コマンドを入力する際に疑問符 (?) を使用する例を示します。

表 1-5 コマンド オプションの検索

コマンド	コメント
Router> enable Password: <password> Router#	<b>enable</b> コマンドおよびパスワードを入力して、特権 EXEC コマンドを開始します。特権 EXEC モードが開始されると、プロンプトが「>」から「#」に変わります。たとえば、Router> から Router# に変わります。

表 1-5 コマンド オプションの検索 (続き)

コマンド	コメント
<pre>Router# configure terminal Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z. Router(config)#</pre>	<p><b>configure terminal</b> 特権 EXEC コマンドを入力して、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。グローバル コンフィギュレーション モードが開始されると、プロンプトが Router(config)# に変わります。</p>
<pre>Router(config)# interface serial ? &lt;0-6&gt;      Serial interface number Router(config)# interface serial 4 ? / Router(config)# interface serial 4/ ? &lt;0-3&gt;      Serial interface number Router(config)# interface serial 4/0 ? &lt;cr&gt; Router(config)# interface serial 4/0 Router(config-if)#</pre>	<p><b>interface serial</b> グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して、設定するシリアル インターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。</p> <p><b>?</b>を入力し、コマンドラインに次に入力する内容を表示します。この例では、シリアル インターフェイスのスロット番号とポート番号を、スラッシュで区切って入力する必要があります。</p> <p><b>&lt;cr&gt;</b> 記号が表示されている場合は、<b>Enter</b> キーを押してコマンドを完了できます。</p> <p>インターフェイス コンフィギュレーション モードが開始されると、プロンプトが Router(config-if)# に変わります。</p>
<pre>Router(config-if)# ? Interface configuration commands: . . ip          Interface Internet Protocol config commands keepalive   Enable keepalive lan-name    LAN Name command llc2        LLC2 Interface Subcommands load-interval Specify interval for load calculation for an interface locaddr-priority Assign a priority group logging     Configure logging for interface loopback    Configure internal loopback on an interface mac-address Manually set interface MAC address mls         mls router sub/interface commands mpoa        MPOA interface configuration commands mtu         Set the interface Maximum Transmission Unit (MTU) netbios     Use a defined NETBIOS access list or enable name-caching no          Negate a command or set its defaults nrzi-encoding Enable use of NRZI encoding ntp         Configure NTP . . Router(config-if)#</pre>	<p><b>?</b>を入力し、シリアル インターフェイスに使用できるすべてのインターフェイス コンフィギュレーション コマンドのリストを表示します。次の例では、使用可能なインターフェイス コンフィギュレーション コマンドの一部のみを示しています。</p>

表 1-5 コマンド オプションの検索 (続き)

コマンド	コメント
<pre>Router(config-if)# ip ? Interface IP configuration subcommands:   access-group      Specify access control for packets   accounting         Enable IP accounting on this interface   address            Set the IP address of an interface   authentication     authentication subcommands   bandwidth-percent Set EIGRP bandwidth limit   broadcast-address  Set the broadcast address of an interface   cgmpp              Enable/disable CGMP   directed-broadcast Enable forwarding of directed broadcasts   dvmrp              DVMRP interface commands   hello-interval     Configures IP-EIGRP hello interval   helper-address     Specify a destination address for UDP broadcasts   hold-time          Configures IP-EIGRP hold time   .   .   . Router(config-if)# ip</pre>	<p>インターフェイスに設定するコマンドを入力します。この例では、<b>ip</b> コマンドを使用しています。</p> <p><b>?</b>を入力し、コマンドラインに次に入力する内容を表示します。次の例では、使用可能なインターフェイス IP コンフィギュレーション コマンドの一部のみを示しています。</p>
<pre>Router(config-if)# ip address ?   A.B.C.D           IP address   negotiated         IP Address negotiated over PPP Router(config-if)# ip address</pre>	<p>インターフェイスに設定するコマンドを入力します。この例では、<b>ip address</b> コマンドを使用しています。</p> <p><b>?</b>を入力し、コマンドラインに次に入力する内容を表示します。この例では、IP アドレスまたは <b>negotiated</b> キーワードを入力する必要があります。</p> <p>CR (&lt;cr&gt;) が表示されないため、コマンドを完了するには、キーワードまたは引数をさらに入力する必要があります。</p>
<pre>Router(config-if)# ip address 172.16.0.1 ?   A.B.C.D           IP subnet mask Router(config-if)# ip address 172.16.0.1</pre>	<p>使用するキーワードまたは引数を入力します。この例では、IP アドレス 172.16.0.1 を使用しています。</p> <p><b>?</b>を入力し、コマンドラインに次に入力する内容を表示します。この例では、IP サブネットマスクを入力する必要があります。</p> <p>&lt;cr&gt; が表示されないため、コマンドを完了するには、キーワードまたは引数をさらに入力する必要があります。</p>

## ■ コマンドの no 形式および default 形式の使用

表 1-5 コマンド オプションの検索 (続き)

コマンド	コメント
<pre>Router(config-if)# ip address 172.16.0.1 255.255.255.0 ? secondary &lt;cr&gt; Router(config-if)# ip address 172.16.0.1 255.255.255.0</pre>	<p>IP サブネット マスクを入力します。この例では、IP サブネット マスク 255.255.255.0 を使用しています。</p> <p>? を入力し、コマンドラインに次に入力する内容を表示します。この例では、<b>secondary</b> キーワードを入力するか、<b>Enter</b> キーを押します。</p> <p>&lt;cr&gt; が表示されます。<b>Enter</b> キーを押してコマンドを終了するか、別のキーワードを入力します。</p>
<pre>Router(config-if)# ip address 172.16.0.1 255.255.255.0 Router(config-if)#</pre>	<p>この例では、<b>Enter</b> キーを押してコマンドを完了しています。</p>

## コマンドの no 形式および default 形式の使用

ほとんどすべてのコンフィギュレーション コマンドには **no** 形式があります。通常、コマンドの機能をディセーブルにするには、**no** 形式のコマンドを指定します。ディセーブルになっている機能を再イネーブルにしたり、デフォルトでディセーブル化されている機能をイネーブルにするには、**no** キーワードを指定しないでコマンドを使用します。たとえば、IP ルーティングはデフォルトでイネーブルに設定されています。IP ルーティングをディセーブルにするには、**no ip routing** コマンドを使用します。IP ルーティングを再度イネーブルにするには、**ip routing** コマンドを使用します。Cisco IOS ソフトウェアのコマンドリファレンスには、コンフィギュレーション コマンドの完全な構文、および **no** 形式のコマンドの機能が記載されています。

多くの CLI コマンドには **default** 形式もあります。コマンド **default command-name** を発行すると、コマンドをデフォルト設定に戻すことができます。Cisco IOS ソフトウェアのコマンドリファレンスには、コマンドのプレーン形式や **no** 形式とは機能が異なる、**default** 形式の機能が記載されています。ご利用のシステムで使用可能なデフォルト コマンドを表示するには、該当するコマンドモードで **default ?** を入力します。

## 設定変更の保存

設定の変更をスタートアップ コンフィギュレーションに保存して、ソフトウェアのリロードや停電が発生した場合に変更内容が失われないようにするには、**copy running-config startup-config** コマンドを使用します。次に例を示します。

```
Router# copy running-config startup-config
Building configuration...
```

設定の保存に 1～2 分かかることがあります。設定が保存されると、次の出力が表示されます。

```
[OK]
Router#
```

この手順を実行すると、ほとんどのプラットフォームでは、設定が NVRAM（不揮発性 RAM）に保存されます。クラス A フラッシュ ファイル システム プラットフォームでは、CONFIG\_FILE 環境変数で指定された場所に設定が保存されます。CONFIG\_FILE 環境変数のデフォルト値は、NVRAM です。

## show コマンドおよび more コマンドの出力のフィルタリング

**show** コマンドと **more** コマンドの出力を検索し、フィルタリングできます。この機能は、大量の出力を並べ替える必要がある場合や、不要な出力を除外する場合に役立ちます。

この機能を使用するには、**show** コマンドまたは **more** コマンドのあとに続けて、「パイプ」文字 (|)、キーワード **begin**、**include**、**exclude** のいずれか 1 つと、検索またはフィルタリングする正規表現を入力します（正規表現は大文字と小文字を区別します）。

```
show command | {begin | include | exclude} regular-expression
```

この出力は、コンフィギュレーション ファイル内の情報の特定の行に一致します。次に、**show interface** コマンドに出力修飾子を使用して、「protocol」という表現が現れる行のみを出力する例を示します。

```
Router# show interface | include protocol

FastEthernet0/0 is up, line protocol is up
Serial4/0 is up, line protocol is up
Serial4/1 is up, line protocol is up
Serial4/2 is administratively down, line protocol is down
Serial4/3 is administratively down, line protocol is down
```

検索とフィルタリングの機能については、『Cisco IOS Configuration Fundamentals and Network Management Configuration Guide』の「Using the Command-Line Interface」の章を参照してください。

## プラットフォームおよびシスコ ソフトウェア イメージのサポート情報の検索

Cisco IOS ソフトウェアは、特定のプラットフォームをサポートするソフトウェア イメージで構成されたフィーチャセットにパッケージ化されています。各プラットフォームで使用できるフィーチャセットは、リリースに収められている Cisco IOS ソフトウェア イメージによって異なります。個々のリリースで使用できるソフトウェア イメージのフィーチャセットを特定したり、特定の Cisco IOS ソフトウェア イメージで機能が使用できるかどうかを確認したりする場合は、Cisco Feature Navigator を使用するか、またはソフトウェアのリリース ノートを参照してください。

### Cisco Feature Navigator の使用

プラットフォームのサポートおよび Cisco IOS ソフトウェア イメージのサポートに関する情報を調べるには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator には、<http://tools.cisco.com/ITDIT/CFN/jsp/index.jsp> からアクセスします。アクセスには、Cisco.com のアカウントが必要です。アカウントを持っていないか、またはユーザ名やパスワードを忘れた場合は、ログインダイアログボックスで **Cancel** をクリックし、表示される説明に従ってください。

### Software Advisor の使用

Cisco IOS リリースで機能がサポートされているかを確認したり、この機能に関するソフトウェア マニュアルの入手先を調べたり、ルータに搭載されたハードウェアに対する Cisco IOS ソフトウェアの最低限のソフトウェア要件を調べたりするには、シスコが提供している Cisco.com の Software Advisor ツールを使用してください (<http://www.cisco.com/cgi-bin/Support/CompNav/Index.pl>)。

このツールにアクセスするには、Cisco.com に登録する必要があります。

### ソフトウェア リリース ノートの使用

Cisco IOS ソフトウェア リリースには、次の情報を記載したリリース ノートが含まれています。

- プラットフォームのサポート情報
- メモリに関する推奨事項
- 新機能の情報
- 全プラットフォームの未解決および解決済みの重大度 1 および 2 の注意事項

リリース ノートには、最新のリリースに固有の情報が記載されています。これらの情報には、以前のリリースに記載済みの機能に関する情報が含まれていないことがあります。以前の機能の情報については、Cisco Feature Navigator を参照してください。